科学者委員会　学術体制分科会
論文査読の意義及び課題に関する検討小委員会　第２回　議事要旨

開催日時：2023 年 3 月 9 日（木）17:00-19:00
開催場所：オンライン会議
出席者：佐々木 裕之、小長谷 有紀、小林 傳司、松井 三枝、和田 肇、山本 晴子、大場 みち子、中村 征樹、田中 智之（敬称略）
欠席者：堀 利栄（敬称略）
参考人：有田 正規（連携会員、国立遺伝学研究所）

１）前回議事要旨の確認

２）有識者からの話題提供及び意見交換
資料２「学術における査読の意義」に基づき、参考人　有田正規（連携会員、国立遺伝学研究所）から、査読の歴史、新興学術誌と査読、プレプリントの歴史について説明を受けた。
・　査読の歴史は浅い。Refereed ではなく Peer-reviewed が主流になったのは 1970 年代。
・　科学の「本質」は対話、査読形式に優劣はなく、完璧な方法もない。編集部が著者との対話を重ねる枠組みが重要。
・　ハゲタカ出版社は基本的にない。査読の質低下は、オープン化・商業化が原因。
・　プレプリントは確実に役立つ。今やほとんどの著名学術誌がプレプリント投稿を容認。
・　目指すべき方向は新興出版やプレプリントの見直し。論文よりもデータの流通に注目。
参考人からの講演に対して質疑応答を行い、プレプリントや新興出版社の利用状況、適切な査読能力をもつ人材の不足、プレプリントの評価方法、コミュニティレビュー、論文の質の確保、レビューワーの推薦等について意見交換を行った。

３）アンケート調査について
・　査読制度についての分野横断的なアンケート調査のアンケート案の説明があり、質疑応答を実施した。
・　対象者は学術会議の会員・連携会員、メールでアンケートフォームのリンクを送付予定。
・　アンケート案についての意見があれば、3/14(火)までに委員長、作成者、事務局にメールする。最終形は作成者、委員長に一任する。

４）その他
・今後の進め方：第３回（ 3 月 24 日、非公開）及び 4、5 月の開催予定（2 回／月）

資料：資料１　第１回議事要旨案

資料２　「学術における査読の意義」　（参考人：連携会員　国立遺伝学研究所　有田正規）

資料３　アンケート調査（案）

以上